

P T Aと学校と生徒会が一体となって

子ども達へのゆとりある活動の推進

下関市立文洋中学校 P T A

1 学校地域の概要

P T A会長	中 野 竜 二
学 校 長	磯 部 芳 規
生 徒 数	1 7 1 名
1 年 生 男	3 9 名
1 年 生 女	2 5 名
2 年 生 男	3 2 名
2 年 生 女	2 1 名
3 年 生 男	2 4 名
3 年 生 女	3 0 名
家 庭 数	1 5 2 世帯
教 職 員	2 1 名
(平成29年4月30日現在)	



所 在 地 〒750-0061 下関市上新地町5丁目6番1号



T E L 083-223-8176

F A X 083-223-8177

ホームページ http://kam.edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/+bunyou_c/

E-mail bunyou-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

(1) 学校・校区の特色

響灘を望む高台に位置し、校区
 一帯は昔、赤間関市（現下関市）
 周辺地として静かな所でしたが明
 治34年山陽線の開通、明治38
 年関釜航路の開通などによる下関
 の繁栄は、次第に西部地区にもお
 よびました。特に下関駅の現在地
 移転後は、より発展しました。

校区には明治維新の志士を祭る
 桜山神社をはじめ、高杉晋作率いる奇兵隊と報国隊
 が小倉戦争の際、焼け落ちる小倉城から持ち帰った
 大太鼓が、小倉戦争の戦勝祈願を行った氏神の嚴島
 神社に奉納され、地区には、高杉晋作終焉の地など
 多数の数多くの史跡があり、生徒の郷土学習に役立
 っています。

関西小学校、桜山小学校の2小学校から入学し、
 明るく人なつっこい生徒が多いです。





〈厳島神社大太鼓〉



〈高杉晋作終焉の地〉



〈桜山神社維新志士の墓石〉



〈奇兵隊結成の地・白石正一郎旧宅の跡〉



〈ひょうたん井戸〉

- ※ 神霊は現在 391 柱
(神霊碑は 396 柱)。
吉田松陰神霊
奇兵隊士 256 柱
報国隊士 96 柱
諸隊士 38 柱、 計 390 柱
- ※ ひょうたん井戸は、高杉晋作が、攘夷派の刺客から丸 1 日身を隠した井戸として伝えられている。

(2) 学校のあゆみ

昭和 22 年 5 月、下関市立第二中学校（生徒数 495 名、教職員 13 名、12 学級）として創立、昭和 26 年 1 月現在の下関市立文洋中学校へ校名を変更しました。

昭和 37 年度、生徒数 2,790 名（54 学級）まで増え続け、昭和 56 年、文洋校区青少年健全育成協議会を発足、平成 25 年、運営協議会（コミュニティー・スクール）を発足、平成 29 年度には、既存のおやじの会の組織の再編「文友会」に名称変更し再始動しました。

近年、高層アパート等の建築が目覚ましく、下関西部地区における交通至便の住宅地域となったが、少子化に伴い生徒数は減少を続け、現在 170 人前後を保っています。

本校の特色として現在、総合 B の授業では、下関平家踊保存会八音会の皆様のご指導の下、生徒は平家太鼓を学んでいます。この平家太鼓の平家踊りは、音頭・三味線・太鼓・踊りからなる 4 構成によって演奏されています。

授業で練習した生徒たちは、学校での文化祭、また、地域祭りの西部地区文化祭、西部地区まちづくりフェスティバルなどの場で、八音会と一緒に出演発表やよさこいの出演発表も行い、地域の方々にも喜んでもらい、生徒たちの成長を届け地域貢献にも力をいれています。



〈まちづくりフェスティバル 2017〉

〈開催日：平成 29 年 9 月 30 日〉



〈西部地区文化祭〉

〈開催日：平成 29 年 11 月 18～19 日〉

(3) 学校経営の概要 学校教育目標 **感動のある文洋中学校**

山口県教育の基本目標「未来を拓く たくましい「やまぐちっ子」の育成」

下関市の学校教育目標「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇(ほこ)りと志(こころざし)」
～ともに学び ともに育み 未来(あす)を創る 下関の教育～

【学校教育目標】

感動のある文洋中学校

【基本方針】

- ・文洋中学校の生徒としての誇りを胸に、夢と志をもって、地域の伝統・文化を大切にしながら、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む
- ・学校・家庭・地域の連携を図り、開かれた、特色ある学校づくりを進める
- ・社会の変化に対応し、意識改革とチャレンジ精神で学校力の向上を目指す

目指す児童像

- (知) 進んで学び、考え、知識を活用する生徒
- (徳) 豊かな心を持ち、自他を大切にする生徒
- (体) 心身ともに健康で、最後までがんばる生徒

目指す教師像

- ・授業改善しながら学習指導をする教師
- ・生徒の心に寄り添い、粘り強く毅然とした生徒指導
- ・家庭や地域との連携を推進する教師

【本年度の重点目標と重点取組事項】

<p>①特色ある教室の配置や教育課程と学習習慣の確立による基礎基本の徹底</p>	<p>②豊かな心の育成と開発的生徒指導の推進</p>	<p>③コミュニティ・スクールを基盤とし、小学校や家庭、地域と連携した特色ある教育の推進</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教室配置・教育課程・授業評価による授業改善 ・個別指導の充実(少人数授業、スタディ・ディ、質問教室) ・学習規律の確立(2分前着席と1分前黙想、立腰の徹底) ・家庭での学習習慣の確立(小中共同取組事項) ・自学ノートの推進 ・小中合同の授業研究と連携授業の推進 ・個々のニーズに応える特別支援教育の推進 ・ユニット型研修の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・夢を育むキャリア教育の充実(進路説明会、職場体験、講演会、立志式など) ・特別の教科道德の充実 ・総合的な学習の時間の充実 ・生徒会活動の活性化 ・縦割り班での黙想の推進 ・保護者とのきめ細かな情報交換と連携 ・立腰の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域(町づくり協議会)との連携 ・小学校や高校、大学との連携 ・小中合同の地域貢献活動の推進(おはピカDay、美化ボランティアなど) ・学校支援ボランティアの充実 ・開かれた学校づくり(たより、メール配信、ホームページ) ・学校の環境整備の推進 ・育成協の充実

【研修主題】

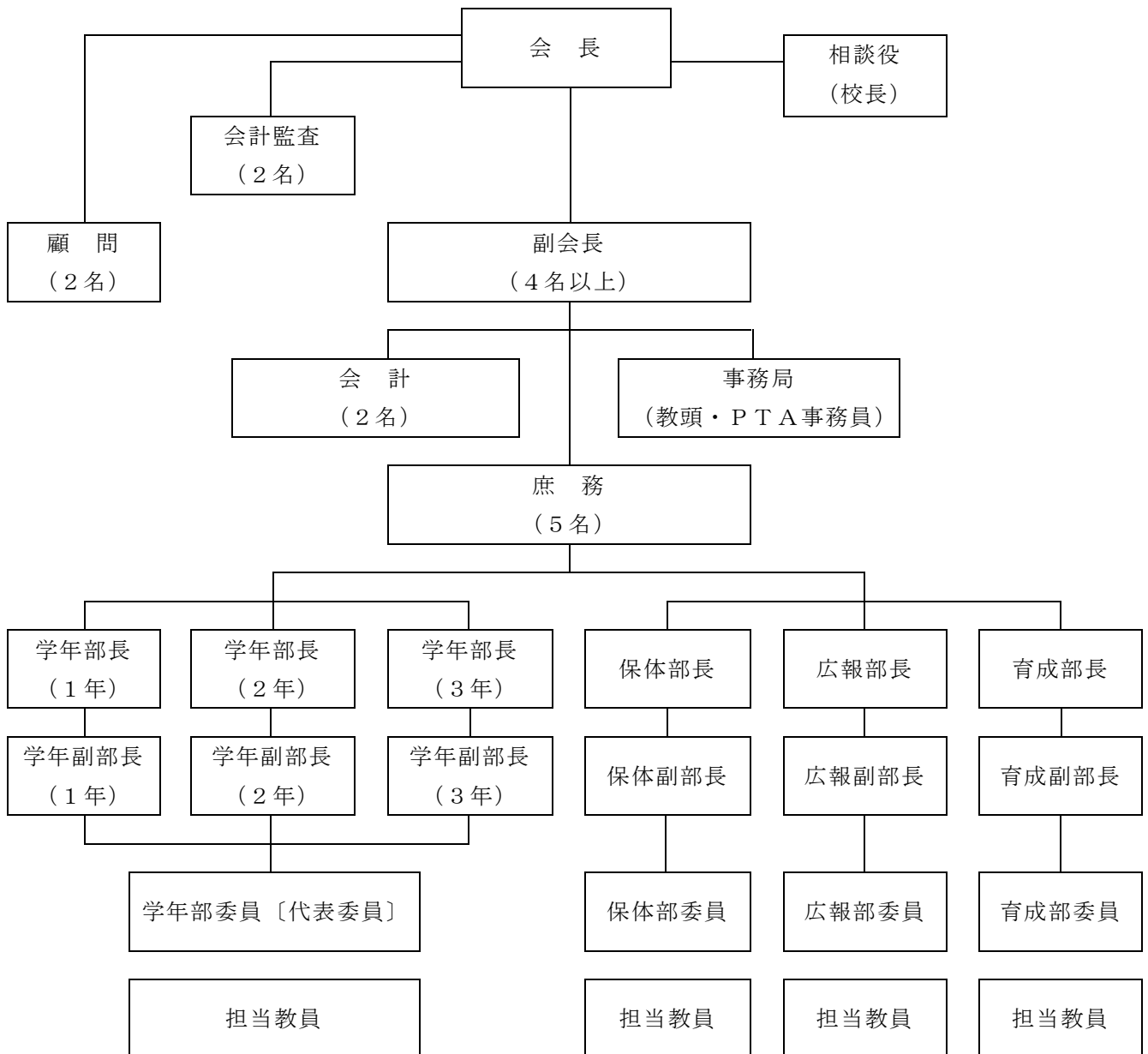
『わかる喜びを実感し、意欲的に学ぶ生徒の育成』
～充実した言語活動を通して～

【学校チャレンジ目標】

- 「美」 ～ 美しい文洋
- 「礼」 ～ 礼儀正しい文洋
- 「時」 ～ 時間が守れる文洋
- 「立腰」 ～ 健康な文洋

2 P T A組織図

(1) P T A役員組織図



※ 人数は平成29年度による

(2) 各専門部の役割・活動

	活動概要	活動内容
学年部	学級、学年の学習環境 学級、学年の連絡調整 学校環境の美化、整備	校地内清掃のお世話、準備 P T Aバザー
保体部	生徒の保健・衛生 会員の体育的行事 会員相互の研修	学校保健委員会 小中学校球技大会のお世話、準備 体育祭 P T A競技のお世話、準備 P T Aバザー
広報部	広報の発行 会員の文化的行事 会員相互の研修	体育祭写真撮影 年3回の広報誌校正、編集 P T Aバザー

育成部	対外生活 交通指導環境浄化 地区健全育成諸団体との連携	体育祭警備、校区年4回土曜巡視 P T Aバザー 育成協総会・地区懇談会準備
-----	-----------------------------------	--

3 研究テーマについて

P T Aと学校と生徒会が一体となって、子供達へのゆとりある活動の推進

【研究計画】

子供達（生徒会）の考える力の向上と子供達が望む的確な、より良い環境整備助成を希望する理由

P T Aは保護者一人一人のお忙しい時間を割いていただき、ご協力のもと活動ができております。使途についてP T Aで考えたことを一方的に実行することよりも、子供達にもP T Aのことをもっと知っていただきたく、本事業を通じて、生徒会に今自分たち（子供たち）が望むことを投げかけます。これによりP T A（保護者）の思い伝えること、子供達の考える力を養うこと、また、現状に沿った子供達が望むこと、的確な環境整備ができることを目指していきます。

4 助成金の有効的な活用方法を考え

助成金の使途を考える中で、学校内の様々な設備などの老朽化が進んでいることを再認識させられます。使途について、P T Aの中だけで考えれば切りがない状況もありましたので、生徒目線を優先することとし、生徒会へ考えてもらうことにしました。生徒会とP T A 2役（会長・副会長）による懇談会を7月の放課後に開催し、生徒会には親として生徒たちに少しでも良い環境の中で学校生活を過ごしてもらいたい気持ちを伝えることから始め、山口県P T A連合会よりいただいたP T A活動支援助成金の説明を行い、生徒たち皆が毎日過ごしている学校において望んでいることを真剣に考えてもらいました。

使途への候補としては、老朽化で撤去された渡り廊下の屋根の再設置、校内に2台ある冷水機の内、老朽化で壊れかけた体育館に設置している冷水機の取替え、夏の暑い時期の熱中症対策としてミストシャワーの設置などの要望があがりました。その結果、助成金の使途としては、冷水機の取替えを実施しました。（ミストシャワーの設置は寄贈によって設置、渡り廊下の屋根の設置は市教育委員会へ再度要望をすることになりました。）



〈冷水機 Before〉



〈冷水機 After〉



〈プールフェンスにミストシャワー平成29年7月初設置・設置期間7月～9月〉

5 P T Aとしての取組 ～思いから行動へと繋がる相乗効果～

(1) バザー品目の見直し

文洋中学校の文化祭に開催するP T Aバザーの販売食品品目は、保護者の協力もあり充実したものになっております。これまでの品目はP T Aで決めていましたが、その品目が生徒たちに喜ばれているのか確認することからスタートしました。

生徒会とP T A 2役（会長・副会長）との懇談会の場で生徒へ趣旨を説明し、生徒会が生徒全員へアンケートを実施し生徒が希望している品目を確認しました。生徒たちの希望する品目に少しでも近づけるように見直しをしました。

今年度も生徒・先生・保護者に喜んでもらえ、好評の中、開催することができました。

バザーに関するアンケート 集計結果

<p>＜体育祭＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お菓子・30品 ●アイスクリーム・31品 ●ソフトクリーム・2品 ●ジュース・6品 ●うみ子・5品 ●たこやき・4品 ●ハンバーガー・4品 ●お芋ト・3品 ●ハンバーガー・3品 ●シューキー・2品 ●栗餅・2品 ●からあげ・2品 ●クレープ・2品 ●うどん・2品 ●巻物・2品 ●焼きたて・2品 ↓以下1品 ほろモンロ、かりがり餅、そうめん、コロッケ、軟めアイス、フローズン、ゼリー、清涼パイン、マルクチャイ、ゆきとり、プリン、アメリカンドッグ 	<p>＜文化祭＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エビフライカレー・11品 ●お芋ト・10品 ●アイスクリーム・9品 ●わたあめ・8品 ●たこやき・8品 ●お菓子・8品 ●うどん・8品 ●シューキー・7品 ●からあげ・7品 ●フルーツポンチ・7品 ●クレープ・・7品 ●カレー・6品 ●アーチ・6品 ●チョコバナナ・5品 ●ハンバーガー・4品 ●カツカレー・4品 ●プリン・4品 ●パン・4品 ●ゆきとり・3品 ●ソフトクリーム・3品 ●ハンバーガー・3品 ●サンディッチ・3品 ●ドーナツ・2品 ●ジュース・2品 ●アメリカンドッグ・2品 ●チョコロス・2品 ●ラーメン・2品 ●ゆきそば・2品 ↓以下1品 寿喜、カレーパン、シーフードカレー、巻物、ゼリー、栗餅、いかやき、フランスフルト、四喜ん、シュークリーム、多岐才力、ハンバーガー、おでん、ほし漬物、パフェ
---	--

アンケートの結果です。よろしくお願いたします。 文洋中学校生徒会執行部一画

〈生徒会作成のP T Aバザー販売食品品目要望のアンケート集計結果〉

個人名簿				学年名簿			
姓	名	性別	学年	姓	名	性別	学年
山本	大輔	男	1	山本	大輔	男	1
山本	大輔	男	2	山本	大輔	男	2
山本	大輔	男	3	山本	大輔	男	3
山本	大輔	男	4	山本	大輔	男	4
山本	大輔	男	5	山本	大輔	男	5
山本	大輔	男	6	山本	大輔	男	6
山本	大輔	男	7	山本	大輔	男	7
山本	大輔	男	8	山本	大輔	男	8
山本	大輔	男	9	山本	大輔	男	9
山本	大輔	男	10	山本	大輔	男	10
山本	大輔	男	11	山本	大輔	男	11
山本	大輔	男	12	山本	大輔	男	12

個人名簿				学年名簿			
姓	名	性別	学年	姓	名	性別	学年
山本	大輔	男	1	山本	大輔	男	1
山本	大輔	男	2	山本	大輔	男	2
山本	大輔	男	3	山本	大輔	男	3
山本	大輔	男	4	山本	大輔	男	4
山本	大輔	男	5	山本	大輔	男	5
山本	大輔	男	6	山本	大輔	男	6
山本	大輔	男	7	山本	大輔	男	7
山本	大輔	男	8	山本	大輔	男	8
山本	大輔	男	9	山本	大輔	男	9
山本	大輔	男	10	山本	大輔	男	10
山本	大輔	男	11	山本	大輔	男	11
山本	大輔	男	12	山本	大輔	男	12

〈平成28年度PTAバザー券予約申込票〉 〈平成29年度PTAバザー券予約申込票〉

(2) 会計の見直し

慣例や前例踏襲にとらわれず、今にあった活動を目指すため、これまではバザーの売り上げの使途の詳細は把握していませんでしたが、収支の検証確認を行いました。

その使われ方は誰も望まれるものではなく、役員へ現状を報告、役員全員で課題を共有しこれからは少しでも生徒に還元していけるようにする運びになりました。

また、以前より学校から、平家踊りを今よりもっと生徒の手で行いたいとの想いも重なり、三味線を購入する予定にもつながりました。



6 学校としての取組 ～思いから行動へと繋がる相乗効果～

(1) 部活動の見直し ～魅力ある学校づくりに向けて～

魅力ある学校づくりに向けて、部活動では、校区の小学生、生徒、保護者や地域の方々の要望の聞き取りから始まり、「楽しむ力を身につける」をキーワードに、今年は部活動の編成が見直しをされています。一方、小規模校で部活の数を増やすと人数が少なくなってしまうので、大丈夫だろうかとの不安もあります。まだ単独校で試合に出る人数が揃っていない部活動もあります。しかし、だからこそおもしろいこれから先、少子高齢化の流れの中で工夫して自分のやりたいことをあきらめない。人数の揃っていない部活動が3年かけて単独で試合に出ることが実現すればきっと将来に繋がるのではないか。そのような中、予選を勝ち残り決勝トーナメントに進むなどの成果が出てきています。決して部活動は人数ではないという結果を踏まえ、これからも子供たちの健やかな成長に向けて、前向きな取組みを進めてくれることと思います。



〈部活動の様子〉

(2) 文洋中学校型教科センター方式 ～魅力ある学校づくりに向けて～

文洋中学校は大規模校から現在、小規模校になったという歴史の中で使用されていない教室が多くあるという状態でした。その空き教室の有効活用として各教科の専用教室にして授業を行う文洋中型教科センター方式が導入されました。

文洋中学校の3校舎は、職員室が入る管理棟、教科の特性を活かした授業形態や掲示の工夫し分かりやすい授業を行う教科専用教室からなる教科エリア棟、3階は1年生、2階は2年生、1階は3年生の学級でホームルームや給食などの普段の生活を過ごす教室エリア棟となります。

この取組は毎日新聞にも掲載されました。

～毎日新聞2017年7月12日掲載記事の内容～

センター方式を導入 教科ごとに専用教室

部活動活発化、地域交流促進 入学希望者も増加

下関市上新地町の文洋中学校（生徒数171人）が、教科ごとに専用の教室を設ける全国的にも珍しい教科センター方式を導入しています。部活動の活発化や地域交流の促進なども進めており、同校の入学希望者が増加するなどの成果を上げています。

同校では昨年4月、磯部芳規校長が岩国市立美和中学校から転任してきました。磯部校長はピーク時は2500人の生徒がいた文洋中が171人にまで減り、空き教室が目立っていることなどに注目され、先生方に「感動のある学校」をテーマに学校活性化に向けた提案を求められたようです。

先生方がまとめたレポートでは生徒だけでなく先生自身も「社会人としての基本」としてあいさつや時間厳守に努めることを掲げられました。また、空き教室を利用するため、本来の1年から3年生までのクラスを1棟に集め、空いた別棟に英語や数学などの専門教室を設けられました。

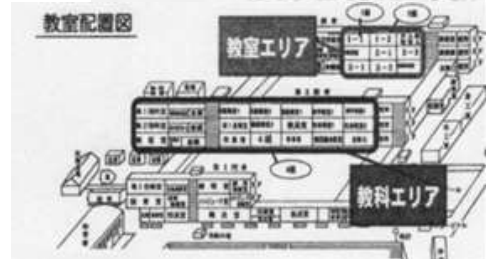
生徒たちが自分の教室から授業ごとに専門教室に通う教科センター方式になりました。英語の専門教室には、室内に生徒たちが京都に修学旅行で行った際の内容を英語でまとめた資料などが張られ、英語を学ぶ雰囲気になっています。

また、同校では放課後の充実化を図る目的でサッカー部を13年ぶりに復活したほか、女子卓球部の新設、廃部予定だった野球部が部員の再募集をして活性化するなど部活動にも力を入れています。

そのほか、地域との交流として潮干狩りやタケノコ狩り、学習補充で地域住民が先生と一緒に生徒に教えることなども始めました。

今年4月から同校がさまざまな取組を実践することを昨年から地域に伝えたところ、校区内からの入学率は2016年度の68%から今年度は81%に上昇しました。

磯部校長は「先生が知恵を出し合い、今の形が出来上がった。文洋で学ぶ生徒たちには、生き方を地域から学び、地域に生き方を伝える、そういう大人になってほしい」と語っています。



〈毎日新聞記事〉

7 生徒会（生徒）の取組 ～思いから行動へと繋がる相乗効果～

（1）第70回体育祭

9月に開催された第70回体育祭では、今年の特徴として生徒会や体育祭実行委員、そして3年生が中心となって練習を企画・運営し、生徒自らが「自分たちの手で創る」新しい形の体育祭に臨みました。今年はスローガンボード・各色応援ボードも制作され、体育祭をより一層彩りました。体育祭テーマは「押してもだめなら もっと押せ！！～光り輝く勝利の道へ～」。生徒の様子から今年も素晴らしい体育祭が開催されていました。



〈勝利をめざして全力で競技〉



〈スローガン・応援ボード〉

（2）文化祭

10月に開催された文化祭では、今年も文化祭実行委員を中心とした文化祭テーマ「KINK～ぼくらが繋ぐもの～」を掲げ、生徒による総合Bや平素の学習を中心に企画しました。また、昨年から文化祭で取り入れた縦割り集団・ユニティ（文洋中学校の魅力ある学校づくりへと向けて小規模校の特性を生かして「縦割り」活動の充実を図るため、1年から3年生までの1組を「1組ユリティ」2組を「2組ユリティ」として、3年生が中心となって活動しています）での合唱は市内でも例を見ない文洋中学校の特色ある合唱になりご観覧された保護者・地域の方々にもご好評でした。



〈文化祭で発表する生徒たち〉

(3) 先輩から後輩へ～スタディ・デイ～

文洋中学校では、月曜日の放課後に部活動を休止し、保護者・地域のボランティアにも協力をいただき学習支援をするスタディ・デイを1時間行っています。

今年は、①「生徒の学力にあった支援」、②「自分理解をアウトプットする場・教えあう雰囲気作りの場の設定」の2点を目標に実施されています。

また、今年からこのスタディ・デイの新しい取組として、先輩が後輩に勉強を教えに行く試みもはじまりました。



〈スタディ・デイの様子〉

8 先輩から後輩へと託さる思い ～次へと引き継がれる思い～

生徒会とPTAとの懇談会の場では、生徒会各自の立場から今の生徒に伝えたいこと、これからの文洋中学校に望むことなど様々なことを真剣に話しました。

平成29年11月11日(土)・12日(日)に下関市菊川ふれあい会館で開催された、「山口県中学校文化連盟第13回総合文化祭下関大会」の冊子の表紙は、本校3年生の安本愛以さんのポスター原画(ポスター部門最優秀作品)が採用されました。3年生の長井絢音さんと坂下慶八郎君が午前の部の司会を務めました。また、文化祭のオープニングでは、地域の八音会の皆様のご指導のお陰で、本校生徒が平家太鼓(平家踊り)を紹介し会場を盛り上げ無事大役をこなすことができました。

出演してくれた生徒たちの好評を頂き、来年度は第18回全国中学校文化祭長崎大会へ出演が決まり、文洋中魂は着実に後輩たちへと引き継がれていくことになります。

来年度、今ある平家踊りの平家太鼓だけではなく、生徒たちの活動の幅を広げていきたいと学校から提案があり、三味線を加えることになりました。さらに音頭も加わることになれば平家踊り全部を生徒の手でできることにも繋がります。生徒たちが太鼓、三味線などを練習して全国中学校文化祭長崎大会の場で素晴らしい出演してくれることを期待し、生徒たちが楽しく学校生活が過ごせるように、これからもPTAとして協力していきたいと思えます。



〈山口県中学校文化連盟第13回総合文化祭オープニングでの平家太鼓の出演と3年生の生徒採用されたポスター〉